

執國事

〔古事記下〕目弱王略中竊伺天皇之御寢取其傍大刀乃打斬其天皇之頸逃入都夫良意富美之家也

〔日本書紀雄十四〕三年八月穴穗天皇意將沐浴幸于山宮略眉輪王伺其熟睡而刺弑之略中坂合黑彦皇子深恐所疑竊語眉輪王遂共得間而出逃入園大臣宅

〔倭訓栞前編四十五〕おみ 日本紀に使主をよめり古事記に意富美に作るよて又おほみとも見えたとれば大身の義成べし古事記日本紀に臣をよむも義同じ音便におんどもいへり勝臣の類也

〔古事記傳四十〕臣は意美にて後世にオノコも訓は音便に頼れたるにて正しからず大身の意なり

朝倉宮段に葛城神の顯れ坐るを宇都志意美とあるも現大身に言は同じ奉る人なるを以て臣字は書なれども君に對へて云臣の意には非ず君に對へて云臣は夜都古云て書記なごにも然訓り此事傳七の八十葉にも云り然るに夜都古と云はた賤き者の如くなりて後には君臣をも技美夜都古と訓すて伎美意美と訓こごにはなれりけむ

〔古事記傳四十〕使主と云號は書紀應神卷に阿知使主都加使主と云人あり此記高津宮段に見えたる奴理能美も姓氏錄に努理使主とあり書紀雄略卷に漢使主等賜姓曰直とあるはかの阿知使主都加使主の子孫にて漢人なり又姓氏錄に使主の尸の姓これかれ見えたるも皆諸蕃なりされば此はもと韓國などより出たる號かはた皇朝にて蕃人の料に制られたるか何れにまれ蕃人の號なりさて此を意美と云こごは書紀顯宗卷に日下部連使主と云人名ありて使主此云於瀾と訓註ありそも於瀾は韓語とも聞えざれば此は皇國にて臣の稱を此使主の訓にも兼用ひられたるにやあらむさて臣と口語は同じけれど我人のは使主と書る文字を以て分